

分子創薬化学分野 〈旧 薬化学研究室〉

Staff

教授 佐野 茂樹 Shigeki SANO

Project

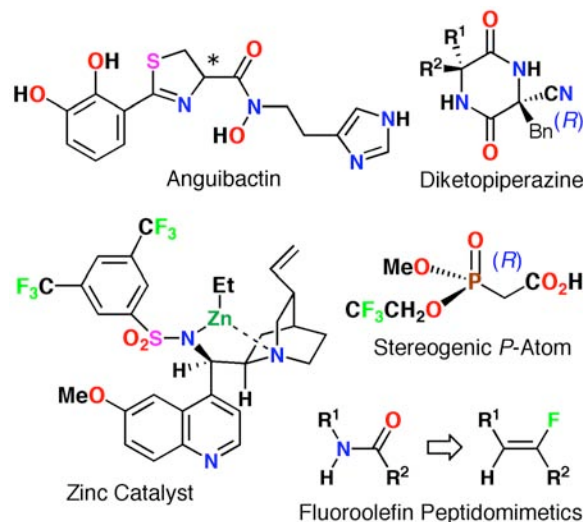
長尾善光教授（現 徳島大学理事・副学長・知的財産本部長）の後任として、平成19年4月1日より、佐野茂樹が分子創薬化学分野（旧 薬化学研究室）を担当しています。

「ヘテロ原子の特性を活用する新反応および機能性分子の開発と創薬への応用」を研究課題の柱とし、チームワークを第一に研究室員が一丸となり、薬学としての独自性と学際性を備えた有機化学的研究に取り組んでいます。

The new professor has taken office in April 2007. The main concern of this department is “development of new reactions, functional molecular devices, and new candidate compounds for drugs”.

研究室の情報は下記ホームページに掲載しています。詳細についてのご質問等は、研究室（6階東）をお訪ね下さい。

URL ☞ <http://www.ph.tokushima-u.ac.jp/?&rf=116>



研究テーマ

- * ジケトピペラジンの分子構造特性に基づく新規機能性分子の創製
- * 亜鉛錯体を用いる触媒的エナンチオ選択的アシル化反応の開発
- * 不斉リン原子を活用するアレンおよびケテンイミンの不斉合成
- * 高立体選択的Horner-Wadsworth-Emmons反応の開発
- * 高立体選択的タンデム型還元-オレフィン化反応の開発
- * フルオロオレフィンペプチドミメティクスの立体選択的合成研究
- * HWE反応を基盤とするグリセリン脂質の合成研究
- * ボロ様キナーゼを標的とした抗癌剤探索研究
- * 脱共役エステル化反応を基盤とする新規不斉転位反応の開発
- * 微小癌診断のための新規赤外蛍光標識試薬の合成開発
- * 分子内励起二量体形成を基盤とする新規蛍光標識試薬の合成開発
- * 骨吸収抑制を目的としたカテプシンK阻害剤の合成開発
- * 光学活性フタラジノン誘導体の効率的合成法の開発
- * シトシン誘導体をプローブとするDNA障害性化合物の探索研究
- * 口臭検査のハイスループット化を目的とした揮発性チオール捕捉標識反応剤の開発 他



2008-04-03撮影・「日本の桜名所百選」西部公園にて

学位論文 2008

平成19年度博士論文

- ・池江 克文「アゼチジン環構築を基盤とする新規抗菌剤の合成開発研究」

平成19年度修士論文

- ・大久保 好規「イソリクイリチゲニンの高効率的合成法の確立とそのZ異性体の合成研究」
- ・津村 武史「σ対称1,3-ジオールを基質とする触媒的エナンチオ選択的アセチル化反応の開発研究」
- ・増田 隆司「シロールならびに光学活性シリルアミンの合成研究」
- ・山田 敏彰「1-シラアレン類の合成ならびにその応用研究」

平成19年度卒業論文

- ・折戸 太一「タンデム型還元-オレフィン化反応を用いるハロオレフィンの高立体選択的合成研究」
- ・腰岡 桜「酸化劣化脂肪酸に含有されるDNA障害性新規化合物の探索研究」
- ・中野 沙織「ジケトピペラジン構造を基盤とするN-Cbz-α-アミノ酸の新規絶対配置決定法の開発研究」
- ・七瀧 浩志「フルオロオレフィンを基盤とするプロリン含有ジペプチドミメティクスの合成研究」
- ・平松 由佳子「モナスコルブラミン、フルオロセインを基盤とした新規蛍光標識化合物の合成開発」
- ・森本 晃允「口臭検査のハイスループット化への応用を目的とした揮発性チオール捕捉反応剤の合成開発」